

2013 年 12 月 26 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会



企画名：AAR スタッフによる出前授業

開催日時：2013 年 12 月 17 日（火）10 時 50 分～12 時 30 分

主催者：常滑市立鬼先南小学校

場 所：常滑市立鬼先南小学校（〒479-0841 愛知県常滑市明和町 2-47）

出張者：堀越 芳乃

参加者：小学 6 年生約 120 人

実施内容：

児童らは国語の授業で、「平和について意見を持つ」ことをテーマに、地雷や内戦、貧困問題など様々な国際問題について学習している。本授業は、これらの問題に専門的な知識と現場の経験を有する国際 NGO の講演を通して、平和について考え、自分たちが平和な世界を築くためにできることを考えることを目的としている。

講演では、まずシリアの内戦をテーマに取り上げ、トルコに避難しているシリア難民の子どもたちの状況や地雷の問題、支援活動について説明した。また、アフリカの子どもたちの生活の様子を写真を通して紹介したのち、日本の子どもたちの生活にあって、アフリカの子どもたちの生活にないものは何か等を考え、発表する時間を設けた。

所感：

児童たちが事前に、当会が作成した地雷問題に関するパンフレットなどを通して学習していたこともあり、質疑応答では様々な質問が寄せられた。「何種類位の地雷を見たことがありますか。」と言った小学生らしい質問から、活動国でのコミュニケーション方法など高校生や大人を対象とした講演と変らないような質問も寄せられた。また、週に 1 回英語の授業があるため、様々な国で英語でコミュニケーションを取るという点に興味を示している児童も見られた。

後日、教員から送付された児童の感想からは、地雷や紛争によって隣国に避難した難民の子どもたちの問題について、講演をきっかけにより身近な問題としてとらえ、自分たちにできることは何か考えるようになったことが分かった。

9. 実施内容：相談員ブースにて、NGO に関する質問・相談に応じた。

（相談例）

- ・ 社会人経験を活かして活動したいが、どのような関わり方があるか。
- ・ 中部地域でインターンができる団体を知りたい。
- ・ 将来海外で働きたいが、どのように経験を積めばよいか。
- ・ ボランティアの情報をどのように集めればよいか。
- ・ NGO スタッフの就職状況（新卒、転職含め）について知りたい。
- ・ 国内でのインターン活動はどのような内容か。

10. 所感及び効果：

社会人経験を生かした関わり方や、キャリア形成、NGO に関する情報収集の方法など、NGO への関わり方について、幅広い相談が寄せられた。

ネットワーク NGO と海外プロジェクトを実施している NGO が相談ブースで対応したことで、最初のきっかけを探している層には幅広い選択肢を提示し、興味・関心が絞り込まれた相談者からは、各スタッフの経験や事例をもとにアドバイスをおこなうなど、より相談者のニーズに沿ったアドバイスが可能となった。



NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 【国際交流フェスタ 2013】
 [形態：相談対応サービス] NGO相談員の情報&相談コーナー
2. 出張者氏名 特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会 西 保彦
3. 依頼団体 甲賀市国際交流協会内 国際交流フェスタ 2013 実行委員会
4. 実施日時 2013年12月8日（日）11：00～17：00
5. 実施場所 碧水ホール
 （滋賀県甲賀市水口町水口 5671 番地）
6. 実施報告

（1）実施概要

甲賀市国際交流協会が主催する幾つかの事業の中で最大の国際交流イベントとして、この「国ふえす」が位置づけられており、地域の国際化推進と多文化共生社会の実現、異文化理解等を主要な取組みとして実施している。同イベントに於いて当協議会はNGO相談員出張サービスブースとして参加協力をおこない、相談コーナーでの個別相談並びに各種国際協力・イベント情報の提供を実施した。国際協力や非営利セクターの活動について情報が希少な地域のため、今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民への理解を深めるための情報発信と共に多文化共生社会における在住外国人の諸問題把握を地域国際交流機関と共有する目的にて賛同した。

参加協力団体として本協議会を含め 17 団体が、「知る・体験する」コーナーに参加する。

- 1) 甲賀市観光協会（名所写真展、市政活動紹介）
- 2) ガールスカウト滋賀第 34 団体（団体活動紹介・ユニセフ募金活動）
- 3) JICA 関西（各種事業活動紹介、海外青年協力隊参加者募集活動）
- 4) 日本フィンランド学校（学校紹介）
- 5) さくらプロジェクト（タイ民族関係の情報提供）
- 6) クミコ会（英語教育）
- 7) とにかくワクワクする会 in 甲賀（エコラブごみ拾い@甲賀の活動紹介）
- 8) こうふくねっと（団体活動紹介）
- 9) 立命館大学国際福祉NPOぺっぴん（フィリピン被災支援：フリーマーケット）
- 10) 甲賀湖南人権センター（活動パネル展）
- 11) (特活) 関西国際団体協議会（NGOに関する各種相談及び情報提供）
- 12) 日本語指導者グループ「和」（団体活動紹介）
- 13) 着物リフォーム（エコ活動紹介、リフォーム着物販売）
- 14) 世界平和女性連合（パネル展示紹介、活動月刊誌配布）
- 15) 鹿深 de ござれ（えのぐ de コミュニケーション実践、団体活動紹介）
- 16) カンボジア（団体活動紹介、フェアトレード物品の販売）
- 17) DeWitt Club（米国姉妹都市情報ポスター展示）

- (2) 参加者数 フェスティバル全体の来場者総数 約 800 名
ブース来場者数 : 53 名
- (3) 相談内容 ①国際協力イベントについて…35 件
②NGO の活動について…10 件
③多文化共生社会に関する相談…7 件
④就職に関する相談…1 件
- (4) 相談者区分 ①NGO・NPO 関係者…1 名
②高校生以下…16 名
③学生…13 名
④行政関係者…1 名
⑤社会人…6 名
⑥無職…1 名
⑦主婦…15 名

7. 所 感

「国際交流フェスタ(国ふえす)in 2013」は甲賀市国際交流協会が主体となり、実行委員会形式で運営をおこなっている。同協会は地域の国際化や多文化共生社会の形成を目指し、長年に渡り活動を推進しており、地域密着型のイベントとして開催し、後援には甲賀市観光課、甲賀市社会福祉協議会、甲賀市教育委員会などが賛同して地域の国際化推進に行政が積極的に取り組んでいる。今年度の実行委員会は大学生を中心とした若者たちが企画・運営を実施していた。これは甲賀市がこれからの地域づくりの担い手となる若者を育成する 1 つの手段としての目的を兼ねて実施した。

来場者層としては甲賀市および滋賀県各地から多くの在住外国人が参加しており、国際的なイベントの雰囲気を出していた。来場者約 4 割が外国人であり、地元の中学生や高校生もイベント協力並びに参加をしており、会場には生徒同士や家族連れの参加が目立っていた。会場内では常に日本人と外国人が共存しており、多文化共生社会のリトルワールドを形成していた感があった。

NGO 相談員ブースへの来場者の相談は、①「国際協力イベント(ワン・ワールド・フェスティバルなど)情報を知りたい」と言うのが半数以上であり、甲賀市以外での大きな国際協力イベントに参加を希望する若者が多かった。その次には、②「NGO の国際協力活動」、③「在住外国人の諸問題(多文化共生社会)」についての相談に集中した。ブースに設置したパンフレットやチラシを取って行かれる方が多く、実際の相談となるとじっくり話をする時間が充分取れず、訪れた方々全員に NGO 相談員制度のチラシを渡して告知し、後日チラシ記述内での問合せ先に連絡をする旨伝えた。

隣のブースでは JICA 関西が活動紹介をおこなっており、昨年度の課題であった「JICA 推進委員との共同推進」は早い段階でイベント参加について協議していたが、共同出展と言う形よりも隣接してブース出展する方が、それぞれの出展目的(同協議会は NGO 相談員制度の普及と地域の国際交流推進支援)を明確にできるので良いと感じた。国際協力活動に興味のある来場者の方には JICA ブースへの誘導をおこなった。

相談内容で特記する事例は在住外国人の労働条件待遇問題など日本人との就労条件の違いについて疑問を抱えており、相談する合法的な機関を知りたいなどの多文化共生における日本社会の制度が直面する法的整備に関する問題が地方においても影響が取り立たされている事を実感した。

8. イベント開催時の風景



会場 (1)



会場 (2)



相談ブース (1)



相談ブース (2)



来場者



イベントメインステージ風景

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企画名：「ミャンマーから考える国際協力及びスタディツアー事前学習」
※出張形態：講演
2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2013年12月13日（火）18:00～20:00
4. 場所：社団法人ガールスカウト日本連盟大阪支部
（大阪府大阪市浪速区湊町1-4-1）
5. 対象者：ガールスカウト日本連盟大阪支部の
子どもメンバー及び成人メンバー 36名
6. 実施報告：ガールスカウト日本連盟大阪支部（以下ガールスカウト大阪）7期生の方及びOGの方を対象に国際協力の概要及びアジアの研修生によるミャンマーの村の事情についてレクチャーを行った。7期生の方は2013年度12月末からミャンマーを訪問する予定であり、現地でガールガイドが半世紀ぶりに復活したということで、指導及び交流に行かれるということだった。今回は7期生を中心に国際協力の考え方やミャンマーの村事情などをレクチャーし、適宜質疑応答を行った。
ガールスカウト大阪では歯磨きの指導や歌での交流を考えており、ミャンマーにこれから行く準備を進めており、その一環としてNGO相談員制度を利用してお声がけいただいた。これからミャンマーに行くという意味でも国際協力や国際関係に興味強い学生たちが対象であった。まず最初に国際協力の概要について説明し、その中でODAやNGO相談員についても触れた。また今回は最後にまとめではなく、それぞれのテーマ毎に時間を区切って質問を受け付けた。テーマは「食事」、「文化」、「飲料水」、「生活用水」、「宗教」、「保健衛生」、「エイズ、結核、マラリア」、「糖尿病と高血圧」、「ボランティア」などであった。細かく区切ったことで「エイズになる経路」や「飲料水と生活用水の井戸は何が違うのか」など具体的で内容のある質問がいくつもできた。
今回、大阪府の都心部での出張サービスの開催であったが、ガールガイドの方たちの関心も高く有意義なものであった。実際にOGの方にはその後NGOで活動したり、JOCVになった方も居られており、今回のメンバーの中からも国際協力の現場で活躍する人がでてくることを期待したい。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「ミャンマーから考える国際協力及びスタディツアー事前学習」の様子①

ガールスカウトメンバーに NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「ミャンマーから考える国際協力及びスタディツアー事前学習」の様子②、③

②研修生のモーママを交えて村の事情を説明しているところ

③これからミャンマーに行くガールガイドとの記念写真

平成 26 年 1 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内 よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「人権啓発フェスティバル 2013」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：竹内 よし子、澤上 幸子

2. 依頼元／主催等団体名：松山市市民部人権啓発課

3. 実施日時：平成 25 年 12 月 8 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分

4. 実施場所：松山市総合コミュニティセンター1F コミュニティプラザ（愛媛県松山市）

5. 参加人数（来場者数）：1,000 人

6. 実施内容および所感、効果：

松山市「人権啓発フェスティバル」は、地域の人権尊重意識の普及・高揚を目的として、毎年開催されている。国際協力において、近年、「人権に基づく開発アプローチ」のように人権の視点で開発協力を考えるようになってきていることから、今回、出張サービスとしてブースを開設し、四国で行われているさまざまな国際協力活動、NGO 相談員制度と ODA についての情報提供を行うとともに、以下の通り、来場者の質問・相談に対応した。

【相談件数】5 件

【主な対応内容】

① 相談内容 ESD の最近の動き・状況について情報が欲しい。

対応 四国内のユネスコスクール登録状況、鳴門教育大学が登録サポートする仕組みがあることなどを説明し、松山市立新玉小学校が年間を通じて全学年的に取り組み始めたことなど具体的な情報を提供した。また、2014 年 2 月に四国 ESD シンポジウムを新居浜市で開催する予定や、11 月に愛知・岡場で世界大会の開催予定なども伝えた。

② 相談内容 1 月 21 日に予定している人権啓発研究会において、国際・多文化共生の視点も入れたいので、活動展示を依頼したい。

対応 出展依頼を引き受けることとした。

- ③ **相談内容** 国際関係の仕事に進みたいと願っている友人がいる。ボランティアではなく、将来にわたり有給で関わる道はないか。

対応 当団体も現在、モザンビークでインターン募集していることが、そういった国際協力系の情報はJICAパートナーのメルマガで得られることを伝え、定期的に情報をチェックして、募集期間や条件を見ながら将来の道を考えるようアドバイスした。また、TICO、セカンドハンドなどの活動、四国NGOネットワークについても紹介した。

- ④ **相談内容** 国際協力に関する事業形成と助成金獲得の申請書の書き方などについて教えて欲しい。

対応 外務省N連、JICA、地球環境基金などに応募する方法を紹介した。中間支援組織と助成団体が共同で説明会などを開催することも可能なので、計画していけると良いと回答した。

- ⑤ **相談内容** 将来、海外でボランティア活動してみたいと考えているが、どのような方法があるか。

対応 教員のまま参加する方法として、3年以上の経験を有していれば、JICAの教員現職参加という方法があることを説明した。



(相談対応の様子)

以上

平成 25 年 11 月 5 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：足元から世界を見つめよう
2. 実施日時：平成 25 年 12 月 18 日（水）13：55～15：45
3. 実施場所：沖縄県立普天間高校
4. 実施内容：沖縄県立普天間高校 2 年生を対象に地域と世界をテーマにしたセミナーを開催した。
沖縄移民の歴史、そして現在の海外日系社会やデカセギ等在日（在沖）日系人について共に学んだ。加えて、教員には、国際理解教育・開発教育の情報提供を行った。
5. 参加者人数：総勢 60 名
6. 所感及び効果

沖縄から海外へ渡った人の歴史を写真を通して学び、加えてアルゼンチン出身のスタッフとともに、沖縄からアルゼンチンへ渡った人々の暮らしや、現地の習慣や文化を実際にマテ茶を試飲しながら学ぶことで関心を持ったように見受けられた。沖縄は移民県と言われるほど、移民者数は多いが、若い人たちの中には、その背景を知らない人たちも多い。ワークショップの中で、海外に親戚がいる人や身近なところに日系人がいるかどうか聞いてみると、存在は知っているが、背景までは知らなかったようである。この機会が彼らにとって、自分たちの足元（沖縄）と世界へ目を向けるきっかけ、一助となってくれることを期待する。



写真は、写真を用いて移民の歴史を学習している様子。